

アクティブシニアをサポートする「テレビ見守りシステム・買物支援サービス」

山陰の小京都の深刻な人口減と高齢化 ITで見守り、買い物難民を救いたい

津和野町は、島根県の最西部に位置する人口約8,000人の城下町。武家屋敷や白壁が並び、掘割には鯉が泳ぐなど「山陰の小京都」と呼ばれる美しい町である。しかし高齢化が進み、2016年1月末時点で高齢化率は45.2%。交通不便地域では買物不便者が増加。人口減少も重なって町内事業者の事業継続が困難な状況となっている。そこで持続可能なまちづくりを目指し、津和野町では「つわの暮らし推進課」が主導してシャープ(株)と連携し、高齢化対策としてITを活かした「見守り事業」を発足し、「買物不便の解消」を推進した。



白壁と掘割が美しい津和野の街並み。

プロジェクトの経緯

地域おこし企業人交流プログラムを活用し シャープの社員がプロジェクトに参加

津和野町は、人口減少問題に向き合い、町民一人ひとりが安心して住み続けられる活力あるまちづくりを目指し、「津和野町まち・ひと・しごと創生津和野町総合戦略」を策定。「地方創生加速化交付金」を活用し、地域課題解決に向けた「持続可能なまちづくり」・「アクティブシニアの活躍」を実現する事業の創出を目指した。

2015年11月、高齢者の見守り対策などを推進する「津和野町地域活動支援室」を開設。これは総務省が推進する「地域おこし企業人交流プログラム※」を県内で初めて活用したもので、シャープ(株)の社員2名が「津和野町 つわの暮らし推進課」に派遣され、ITを活かした高齢者見守りシステムや、買い物難民への支援を展開していく「アクティブシニア総活躍事業」の実証プロジェクトとなる。

※「地域おこし企業人交流プログラム」:
3大都市圏に勤務する大企業社員が一定期間地方自治体の業務に携わる。専門知識・業務経験・人脈・ノウハウの活用とともに、地方圏への人の流れを創出するもの。



シャープ(株)の津和野町出向社員。

津和野町・地場企業 シャープ(株)が連携 第三セクター企業の設立を目指す

「アクティブシニア事業」は、町内全地域を対象に、50世帯選出による実証事業を実施。町関係部門・町議会議員・商工会・社協等関係各方面へのヒアリングにより地域課題の掘り起しをし、「見守り」及び「買物支援」を行う。組織体制は、津和野町・地場企業・シャープ(株)が連携。地域の既存事業に「アクティブシニア事業」を加え、地域で自助自立運営を行い、事業継続の担い手となる第三セクター企業の設立を目指す。



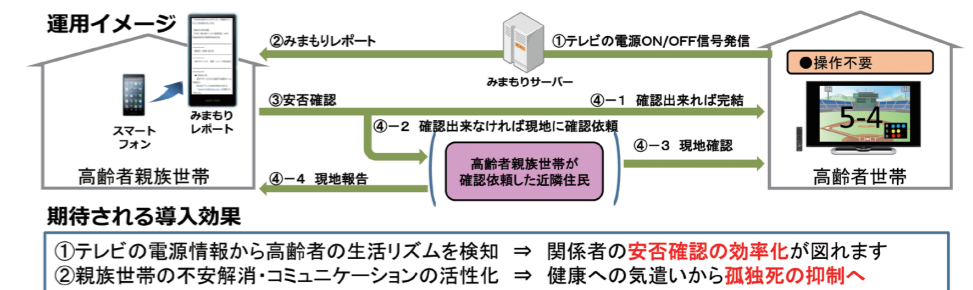
導入の効果と成功のポイント

自治体、シャープ、地域の連携と現場密着が 自助自立し持続可能な仕組み作りに

自治体職員とシャープ(株)の派遣社員の連携による地域課題・ニーズの掘り起しを、現場密着で取り組みを推進したこと併せ、福祉関係者や地元商店との連携体制構築を図ったことにより、地域が自助自立し持続可能な仕組み作りに繋がった。

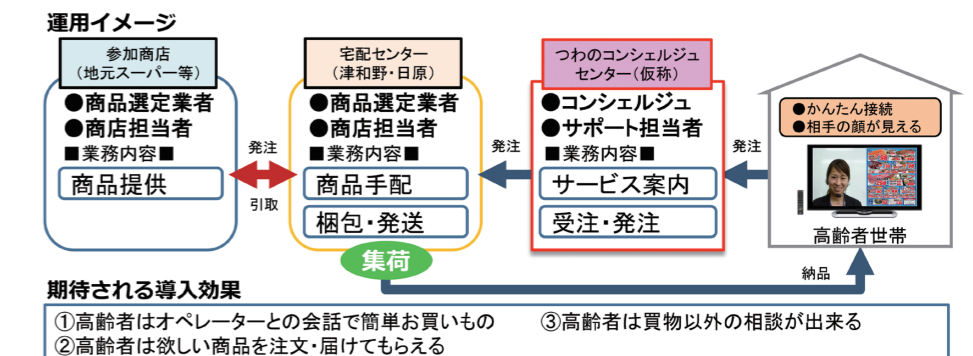
1 ICTを活用した見守りサービス

見守りシステムは、高齢者および高齢者親族向けに、高齢者の自宅テレビに電源が入ったことを把握して安否を確認するもの。テレビの電源ON/OFF情報から見守りサービスを行うとともに、異常情報発生の場合は、親族世帯が中心となって関係者と連携して高齢者をサポート。



2 ICTを活用した買い物支援サービス

高齢者からの商品発注を、コールセンターのオペレータとテレビを通じた会話を通じて行い、宅配センターに発注。宅配センターにおいて参加商店と連携して商品手配・梱包し、配送業者より納品を行う(買物以外の相談も可)。



シャープ株式会社 ビジネスソリューション事業本部 国内マーケティング統轄部 法人ビジネス営業部
<http://www.sharp.co.jp/>

〒639-1186 奈良県大和郡山市美濃庄町492 Tel.0743-53-5521 (大代)